



滋賀県道路整備アクションプログラムの見直しに向けた地域ワーキングを開催

このたび滋賀県では、平成30年3月に公表した『滋賀県道路整備アクションプログラム2018』の見直しを実施することになりました。南部土木事務所では、11月9日に第3回南部地域ワーキングを開催しました。

第3回地域ワーキング開催概要

【日時】 令和4年11月9日（水）
14:00～16:00

【場所】 南部合同庁舎 4階4A会議室

▶ 地域ワーキングの目的

南部土木事務所管内の地域課題を抽出し、その課題を踏まえた今後の道路整備について、色々な立場の方から意見をいただくことを目的とする。



アクションプログラム策定スケジュール

第1回
ワーキング

5年間を振り返り、地域の道路、交通の問題点や課題等についてご意見をいただきました。

第2回
ワーキング

第1回WGでいただいた意見に基づき、「地域の声(案)」「地域の重点項目(案)」を作成、提示し、意見をいただきました。

第3回
ワーキング

「地域の声」や「地域の重点項目」をとりまとめるとともに、地域の課題を解決する事業中箇所を提示し、意見を聴きました。 **今回**

第4回
ワーキング

アクションプログラム2023(案)を提示し内容について意見をいただきます。

アクションプログラム2023策定
(令和5年3月予定)

「地域の声」「地域の重点項目」の提示内容

1 交通渋滞の緩和

本地域では、商業施設が立ち並び幹線道路や国道1号、8号等の南北軸と交差する東西軸における渋滞が目立ち、日常交通だけでなく物流交通に対しても経済的な損失を招いているほか、バスの定時性が確保できないといった公共交通の利便性低下にもつながっています。

このため、渋滞緩和に向けた道路拡幅やバイパス整備、交通処理機能強化につながる交差点改良等の積極的な実施が必要です。

2 災害時も含めたまちづくりに資する拠点間ネットワークの整備

本地域は整備が進む南北軸と比較すると東西の拠点間を結ぶ道路ネットワークが不十分であり、災害時の緊急輸送道路も限定されている状況となっています。

移動の効率化を進め、地域の産業や生活機能の向上のため、各道路管理者の連携のもと、まちづくりと一体となり、かつ災害時にも機能する拠点間ネットワークの整備が必要です。

3 安全で安心・快適に利用できる歩行者・自転車の道路利用空間の整備

本地域は人口増加が継続しており、高齢者や幼児・児童、障害者をはじめ、まちを歩いて移動するすべての人が、ユニバーサルデザインの観点から、安全で安心して移動できる、歩きやすい歩行空間確保を望んでいます。

また、ナショナルサイクルルートに指定された”ピワイチ”をはじめとする自転車周遊観光の推進により、県内外からの自転車利用者が増加していることから、安全・快適な自転車空間の確保も必要です。

4 快適な道路環境創出に向けた維持管理

橋の老朽化や道路舗装の劣化などに備えて、計画的な維持管理を充実させていくことが必要です。また、歩道にはみ出した草などは、道路利用者の通行の支障となったり視界を妨げ危険性も高めるため、定期的な除草処理等の維持管理も必要です。

さらに、自転車利用観光客も含む、すべての人が快適かつ安全に道路を利用できるように、わかりやすい道路標識や路面標示の設置にも取り組む必要があります。

ワーキングでいただいた主なご意見

▶「地域の声」・「地域の重点項目」事務局(案)へのご意見

【全体を通じたご意見】

- これまでの意見を踏まえて網羅する形でまとめてもらっていると思うので、特段意見はない。地域の声を踏まえて、市の担当者の声も踏まえて最終の提示をしてもらえたらと思う。
- 前文にて「歩行者・自転車での移動が困難である」とあるが、歩行者の安全空間を保たれているところもあるので、「移動環境が整っていないところがある」というような書き方でも良いのではないかと。また、最後の文章に「今後の道路整備の礎」とあるが、「道路環境整備」の方が良いのではないかと。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
・交通渋滞の緩和	・著しい渋滞を緩和できる整備

- 駅周辺の幹線道路の渋滞が著しく、バスの定時性や駅へのアクセスのしにくさが課題となっている。東西軸の弱さに伴う県道などの主要道路の混雑の問題も顕著である。大きなネットワークの整備の観点からも、こういった課題の解消が期待できる道路がしっかり評価されることが大事だと思う。
- 重点項目の指標については、どこまでの範囲が該当するかを決めておかないと客観的評価にはならないので、何かしらの基準は決めておかないといけないと思う。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
・災害時も含めたまちづくりに資する拠点間ネットワークの整備	・幹線道路の整備

- 東西の拠点間を結ぶネットワークが不十分で、緊急輸送道路も1路線しかない。巨大地震で太平洋側の交通網が被災し、日本海側の北陸道経由も寸断されると琵琶湖の湖上輸送を活用するしかない。
- 歩道幅2～3mを確保した上での道路整備を。
- 無電柱化の推進について、減速しなければならない箇所があると渋滞が発生する。災害にも関わる内容であるが、渋滞が起こらない道路を作っていくためにも、ということを加えると一般の方はもっと分かりやすいのでは。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
・安全で安心・快適に利用できる歩行者・自転車の道路利用空間の整備	・通学路等の整備

- 交通弱者を守る、安全な道づくりが必要。これからの道づくり、誰もが安全安心に使える道づくりを願っている。
- 人口増で児童生徒も増加している。通学路は重点的に評価していただきたい。一方で、郊外は高齢化が進んでいる。地域を再生することを目的とする道路に関連するものとして評価してもらいたい。
- ピワイチの関係で県内外からも多いので自転車空間の確保が必要と記載しているが、実際には自転車事故は地元の人ばかり。地元に住んでいる人たちが望んでいるのが自転車安全空間の確保で、それに加えてピワイチでさらに必要といった表現にしてはどうか。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
・快適な道路環境創出に向けた維持管理	—

- 除草作業について、大型車の通行障害になる枝の剪定などもあるので道路パトを通じて年間実施してもらいたい。
- 橋梁の老朽化の問題について、調査・点検し、予算措置を講じて早急に改修をしてもらいたい。
- 定期的な除草について、山間部ではなかなか人の動きもないので見落としがちになっている。地域からの声があれば維持管理をしてもらえる形にしてもらいたい。

【その他】

- 最終的に冊子にするときには、フォントをUDフォント等の見やすいものにしてもらうと良いと思う。
- 安心・安全・快適については、何らかの使い分けがあった方が良いと思うので、整理してもらいたい。



地域ワーキング委員(敬称略、五十音順)

綾井 考子 [草津栗東交通安全協会 副会長]	川瀬 正 [守山市都市経済部 部長]
井上 和典 [栗東市建設部 部長]	田中ひろ子 [守山野洲交通安全協会 会長 滋賀県商工会議所女性会連合会 副会長]
岩崎 裕史 [公募委員]	中井 拓 [守山警察署交通課 課長]
打田 敏之 [草津市建設部 部長]	平川 千波 [滋賀県トラック女子部会 会長]
大黒 栄一 [公募委員]	三上 忠宏 [野洲市都市建設部 部長]
小川 圭一 [立命館大学理工学部 教授] (座長)	山本 勇造 [公募委員]
奥田 晃 [草津警察署交通第一課 課長]	
奥田 康博 [(公財)滋賀県身体障害者福祉協会 常務理事] (欠席)	

滋賀県道路整備アクションプログラム 地域別アクションプログラム 南部地域ワーキング
～南部地域ワーキングニュース～ 2022年12月発行

【編集・発行】 滋賀県南部土木事務所道路計画第一課

〒525-8525 草津市草津3丁目14-75 TEL:077-567-5439 FAX:077-562-9234

E-mail: ha31100@pref.shiga.lg.jp URL: https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/douro/328552.html

議事録URL
はこちら

